

# 学校法人 野幌キリスト教学園

## 〔第1部〕 のっぽろ幼稚園

### I. 自己評価結果公表シート

No.1

#### 1. 本園の教育目標

幼な子を独立した一人の「人格」と位置づけ、その幼な子には神によって与えられている、掛け替えのない生命、個性、賜物が内在しており、それらの賜物を内発的に生かし成長させる、というキリスト教幼児教育の基本的な理念に基づき、幼な子の全人的発達を目指す(キリスト教全人教育)。

具体的には、幼子の最初の社会体験となる幼稚園で「集団づくり」を大切にし、「遊び」を通して自他の存在と区別を知り、自己肯定観を育て、他者と「共に生きる」生き方を学び、自由と規律、平和への思いを身に着ける。

#### 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

幼稚園としての教育課程の内容を再確認し、教職員の研修・研鑽を積み上げて、教職員の共通理解を深め、教師集団の質を高め、教職員のチームワークによる「全員保育」を展開するとともに、保護者や小学校との教育連携、とくに幼少連携を強め、さらに子育て支援の一環としての「預かり保育」・「未就園児保育」の充実を目指す。

#### 3. 評価目標の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
幼稚園の教育課程の編成・実施に関して、教職員間の共通理解を図り、全員保育を推進する。	新教育要領の基本理念に鑑み、本園のキリスト教教育の使命の推進が肝要と認識し、理念のみならず、具体的な実践場面での展開について協議し、『のっぽろ幼稚園カリキュラム』に基づき実践を行う。
子ども子育て新制度への移行について検討する。	理事会、また、職員会議で、新制度についての学習、検討を重ねてきた。その結果、12月の理事評議委員会において、現行のまま、学校法人として運営していくことを決定した。
教育の質の向上、連携強化のため、園内研修を継続して実施する。	長年の実績として、キリスト教保育の原点を理解し、金曜日の「礼拝」説教(全教師が担当)の聖句(聖書の箇所)を事前に研修するため、宗教主任(牧師)による「聖書研究」を続けている。 毎朝の職員朝礼では、担任による子ども達の動向の報告、毎金曜日の「週反省」では、1週間におけるクラス経営の方針と反省、園児個別の問題点の報告・認識の共有を行い、そのことによって、「全員保育」が実践されている。

<p>幼少連携、異年齢交流、地域交流について、具体的な推進を図る。</p>	<p>幼少連携については、地元の若葉小学校の式典参加、学芸発表会 参観他、本園の運動会、生活発表会には、同行の校長の来訪・参観があった。</p> <p>卒園児の入学先の教諭との引き継ぎも、年々充実してきている。</p> <p>異年齢交流では、とわの森三愛高校酪農経営科の圃場の一部に設けられた「なかよしふあーむ」でのトウモロコシの種まき、除草、収穫の取り組みが、15年目となつて、今年も実施された。</p> <p>市内中・高生のキャリア学習も受け入れている。</p> <p>老人施設「はるにれ」「ふれあいの里(2施設)」への訪問交流も続けている。</p>
<p>保護者のニーズ、要望や苦情に適切に応えるとともに、保護者との連携・協力を深める。</p>	<p>従来から、保護者との直接対話を重視しているが、特に連絡用紙も活用できるようにして連携を深めている。</p> <p>月刊園だより『こひつじ』、担任による『クラスだより』を発行し、報告、連絡を密にしている。</p> <p>メール一斉送信システムを採用し、緊急時の連絡に生かしている。</p> <p>幸いなことに、保護者からの苦情等はほとんどなく、よく理解し、大変協力的である。</p>
<p>幼稚園の情報公開に努める。</p>	<p>『自己点検・自己評価』については、9年前より実施しているが、今回も『のっぽろ幼稚園自己点検・自己評価報告書(公表シート)』をまとめ、「事業報告書」と合わせて、ここにも出版した。</p> <p>教育活動年度報告書『こひつじ』の発行は、通算43号(B5版、100ページ)となった。</p> <p>本園のホームページアドレス</p> <p><a href="http://www.kids-nopporo.com">http://www.kids-nopporo.com</a></p>

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

第三者評価としての学校評価については、実施していない。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
安全管理	2002年度より、夜間警備をセントラル警備保障KKに委託し、2008年度には正面玄関に電磁ロック設備を設置、AEDを配備し、広大な校地の境界には2009年度にフェンスの設置、生垣の補植をし、環境整備をほぼ整えることができた。

特別支援教育	特別支援を必要とする園児が年々増加しているが、保護者の理解とズレがあることが悩みである。その結果、いわゆるグレーゾーンの子どもに加配が必要でも、補助金を申請できないケースが多いことも同様に悩みである。
本園に対する保護者・地域住民の期待・要望について	近年の教育実績が評価されて、保護者からの信頼も高く、入園児増加となって表れている。特に、満3歳児入園が増加している。また、早朝・保育後の預かり保育も子育て支援として有効に活用されている。未就園児クラスからの入園も増加している。

#### 7. 財政状況

少子化がますます進行中であるが、2015年度は、年度当初から186名と定員を超えてスタートし、年度末には、201名に達した。そのために財政的には安定して、大変感謝であった。